

令和2年度  
景気観測調査  
報告書

令和3年3月

玉造商工会



## 【目 次】

### I. 調査概要

### II. 調査結果

#### 1. 業況判断

#### 2. 業況判断（前年度比較）

#### 3. 業況判断の主な理由

#### 4. 次期の業況見込み

#### 5. 次期の業況見込み（前年度比較）

#### 6. 次期の業況見込みの主な理由

#### 7. 設備投資の動向

#### 8. 設備投資の主な内容

### III. 調査票

## I. 調査概要

1. 調査目的 : 当地を代表する観光産業の景気動向を把握し、今後の地元観光産業の基礎資料として活用することを目的とする。

2. 調査対象者 : 玉造商工会会員事業所（法人・個人含む）で、観光産業に関連する事業所の経営者、または経営に携わる方。

### ※業種と対象者数

・ 木地漆器業	5 事業者
・ 小売業	12 事業者
・ 料理、飲食業	9 事業者
・ 旅館、ホテル業	9 事業者
合計	35 事業者

(※事業者の選定は任意)

3. 調査方法 : 上記対象者に対する留置式パネル調査

4. 調査期間 : 四半期毎  
3月～5月 (第1期)  
6月～8月 (第2期)  
9月～11月 (第3期)  
12月～2月 (第4期)

5. 調査項目 : ①当期の景況感についての判断及びその判断理由  
②次期の景況感についての見込み及びその判断理由  
③設備投資の有無及びその理由

6. 集計方針 : 調査項目の①、②は、「景気がよい」「やや景気がよい」と判断した回答の構成比合計から、「やや景気が悪い」「景気が悪い」と判断した回答の構成比合計を差し引いた数値で業況判断の指数 (Diffusion Index) としている。なお、「例年と変わらない」はカウントしない。  
また、各事業所の業況判断の理由を踏まえ、指数と照合し相対的に各期の景気動向を解釈する。  
調査項目の③は、業種ごとの設備投資の有無とその理由について、相対的に検討し業況判断を行う。

## 7. その他

- : ①集計結果については、回収数を母数とし地域全体の代表性を表すものではない。
- ②集計時の構成比は、小数点以下2位を四捨五入しているため合計が必ずしも100%にならない場合があるが、表記は100.0%としている。
- ③報告書作成においては、集計方針を受けて有用と判断されるものを採択し掲載することとする。
- ④本報告書は、年間4回の調査を集約したものである。
- ⑤調査結果1. 及び4. に掲載している年間ポイントは、本事業継続を前提とすることにおいて、以後の年度ごとにその業況感の向上・回復や下降・下落の変遷を比較することを狙いとしている。

## II. 調査結果

### 1. 四半期ごとの業況判断

業況としては、新型コロナウイルス感染拡大の影響による緊急事態宣言や不要不急の外出自粛等相俟ってすべての業種で全期「不調」となっており、特に第1期（3月～5月）では、回答者全員が「やや景気が悪い」「景気が悪い」との判断に至っている。

第2期（6月～8月）、第3期（9月～11月）において一部、改善の傾向が見られたものの、第4期（12月～2月）では再度、悪化となった。

【表1 四半期ごとの業況判断】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期	不調	不調	不調	不調
第2期	不調	不調	不調	不調
第3期	不調	不調	不調	不調
第4期	不調	不調	不調	不調
年間ポイント	-4.0	-4.0	-4.0	-4.0

※判断基準：好調 =50%以上

やや好調=1%～50%未満

やや不調=0～-50%未満

不調 =-50%以下

※年間ポイント：好調 =1ポイント

やや好調=0.5ポイント

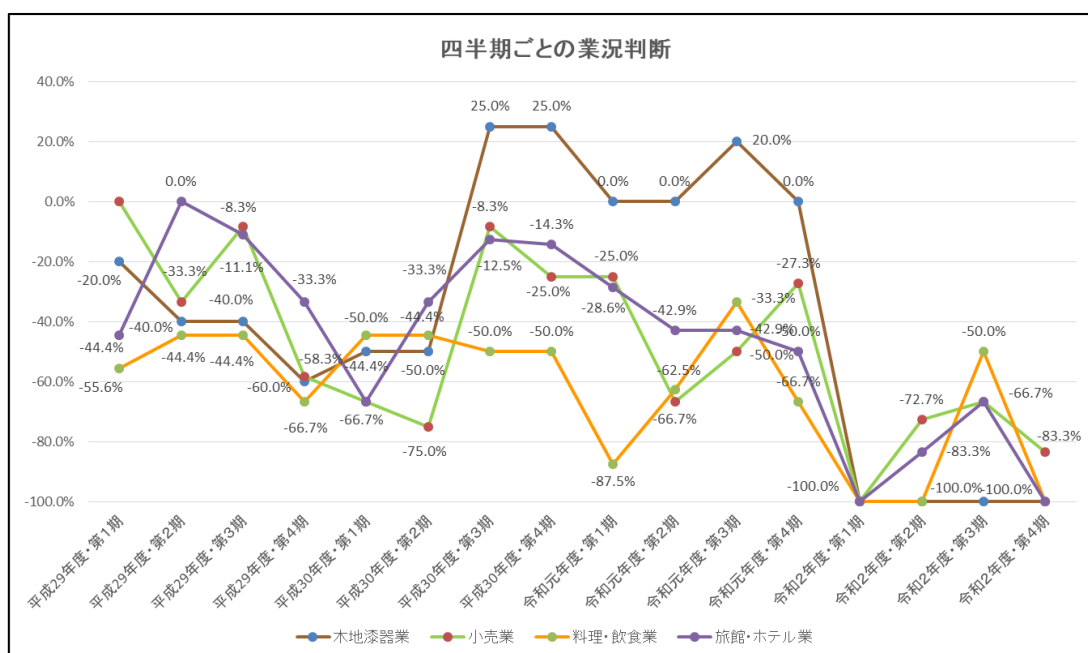
やや不調=-0.5ポイント

不調 =-1ポイント

の加減

(最高点=4ポイント 最低点=-4ポイント)

【図1 四半期ごとの業況判断】



【表2 四半期ごとの業況判断 集計表】

第1四半期	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
小売業	0.0%	0.0%	0.0%	18.2%	81.8%
料理・飲食業	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	71.4%
旅館・ホテル業	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	83.3%

第2四半期	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%
小売業	0.0%	9.1%	9.1%	27.3%	54.5%
料理・飲食業	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	85.7%
旅館・ホテル業	0.0%	0.0%	16.7%	33.3%	50.0%

第3四半期	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%
小売業	0.0%	8.3%	16.7%	41.7%	33.3%
料理・飲食業	12.5%	12.5%	0.0%	12.5%	62.5%
旅館・ホテル業	0.0%	11.1%	11.1%	33.3%	44.4%

第4四半期	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	80.0%
小売業	0.0%	8.3%	0.0%	16.7%	75.0%
料理・飲食業	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	77.8%
旅館・ホテル業	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%

## 2. 業況判断（前年度比較）

全業種において、前年度比較マイナスとなっており、特に第1期のマイナス幅が大きくなっている。

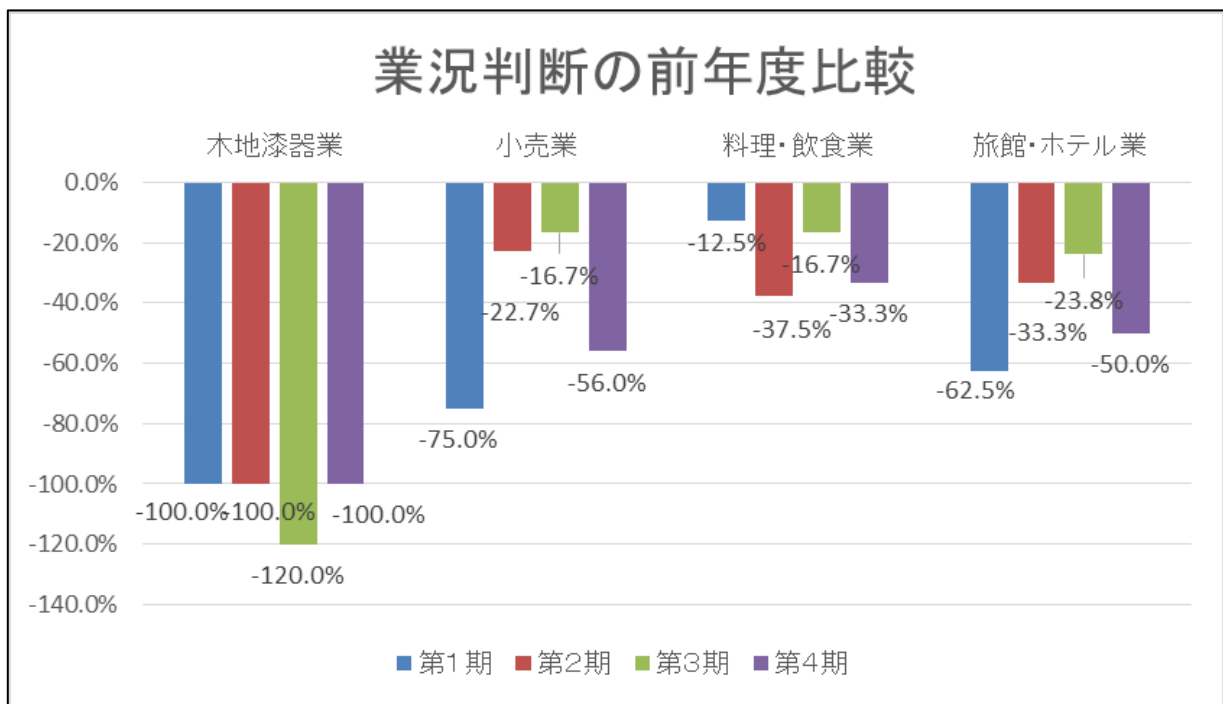
木地漆器業においては、前年度第3期がプラスに転じていたものの今期マイナスとなり、マイナス幅は120.0%となった。

料理・飲食業は前年度も悪化の状況にあったことから、マイナス幅は他の業種と比較すると小さくなっている。

【表3 業況判断の前年度比較】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期	-100.0%	-75.0%	-12.5%	-62.5%
第2期	-100.0%	-22.7%	-37.5%	-33.3%
第3期	-120.0%	-16.7%	-16.7%	-23.8%
第4期	-100.0%	-56.0%	-33.3%	-50.0%

【図2 業況判断の前年度比較】



## 3. 業況判断の主な理由

### ①第1期（3月～5月）

- ・コロナになり、店舗も休業したので売上は無かった。
- ・コロナにより観光客が来ない
- ・コロナが流行し、来客、体験、食事の予約が無くなった
- ・今年はコロナウイルスのため、ほとんどお店は休業状態でした

- ・コロナ流行のため、休業日を設けたりしたので、売上としてはまったく効果はなかった
- ・新型コロナウイルスの影響で、観光客が激減し、土産品の売上が減った。5月のゴールデンウィーク中は休業
- ・来客、販売量ともにコロナの影響により大幅に減少。GW 期間は休業した。
- ・観光客の減少。地元人口の減少。
- ・コロナの影響。客数減少、売上減少。
- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、大きく売上を下げることとなったため。
- ・コロナの影響が最も大きく出た時期です。
- ・新型コロナウイルスの影響により、入館者減のため。
- ・コロナのため
- ・新型コロナウイルスの影響。3月4月からの団体予約はキャンセル、法要での会食の中止が相次いだ。テイクアウトランチを提供しているが、売上減少分を埋めるには至っていない。
- ・観光客が完全に減少しているし、お客様の単価が落ちて来ています。高齢のため、足を運ばなくなった方々も多く、全体的に街の中も静かで日中でも閑散としている。
- ・新型コロナウイルスの影響で、来客数が減少した。
- ・コロナの影響
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休業したため。
- ・コロナの影響で、観光客が全くというほど来なかった。5月は連休を含め、休業を多くとった。
- ・コロナによる影響で休業もあり、どうにもなりません。
- ・政府の安売り観光一辺倒により湯治場の声が掻き消されている状態。旅をする行為の主体性の喪失状態。このことがコロナよりも傷口を拡大している現状。コロナが終焉してもこの傷口は癒えないように思える。
- ・新型コロナウイルス感染拡大により来客数の激減、休業により収入減。

## ②第2期（6月～8月）

- ・まだまだコロナの為に観光客が鳴子に来ていない状態です。
- ・コロナにより観光客がいない
- ・体調が悪くなり、4ヶ月仕事が出来なかった。
- ・8月に入り、クーポンをご利用されるお客様で少しは忙しくなりましたが、今年の1/3の売上でした。
- ・コロナに対する行政などからの助成があり、何とかつなぐことが出来ている。
- ・新型コロナウイルスが終息せず、観光業が大打撃を受けた。
- ・前の四半期に比べ少しは良くなったが、まだまだ来客は戻っていない。
- ・コロナの影響



- ・コロナウイルスの影響による景気悪化
- ・やはり、コロナの影響は少なからず残ってます。
- ・新型コロナウイルスの影響により入館者減の為。竹細工の生産数減の為。
- ・コロナの為
- ・まだ会議等会食は、まだまだ前年度の売上にはむずかしい。
- ・客足が伸びず、自粛生活が続き、お盆でもあまり出歩くお客様も見えず、全体的に売上は伸びない。
- ・新型コロナウイルスの影響で、売上は前年の50%以下である。
- ・新型コロナウイルスのため
- ・コロナの流行で、観光客が激減、宿泊施設が休業。
- ・コロナの影響はあるものの、さまざまな景気対策もあり、売上も例年並みに戻ってきている。
- ・第1期から立ち直れず、引きずっている状態
- ・コロナ感染が終息していない。

### ③第3期（9月～11月）

- ・コロナが収束しないため、お客さんはあまり来ないようです。G0-T0キャンペーンがあるけど現金が入金になるまで1ヶ月位かかるので景気は悪いのみ。
- ・コロナで観光客が少ない
- ・観光客減少
- ・G0-T0クーポン、その他のクーポンがあったので、店のお客様は例年の通り来ていただきました。卸の商品は動きませんでした。10月-11月の景気の上向きはその時だけのようです。
- ・9月、10月とクーポンでのお買物をするお客様が多く、11月に入ると後半はほとんどだめでした。売上も昨年の半分でした。
- ・コロナ対応のクーポン使用者が多く、前年の70%位になっている。
- ・コロナウイルスが収束せず、秋の繁忙期ではあったが、例年のような人出はまったくなかった。
- ・G0-T0トラベルのお陰で何とかなりました。
- ・宿泊客は入ってますが、街には出てきません。街全体が空地が多くお店の減少で魅力が無く、ホテルの売店、駅前の土産店でも地元より下りの品が多く、もう少し地元製品に目を向けてほしいです。
- ・コロナの影響を受け、売上が例年同期と比べ悪化していることから。
- ・客数の減少、それに伴って売上も減少してます。しかしながら、コロナ禍にあってこの程度の落ち込みで済んでいるのはありがたいと感じています。
- ・コロナの影響により、入館者減、竹細工の生産数減のため
- ・大崎市でコロナウイルスが出たので、いろんなイベントが中止になり、予約もキャンセルになり、去年より売上は減少しています。
- ・都合により、休業しました。

- ・コロナの影響で、団体での飲食がなく、客入りが悪い。
- ・GO-TO のおかげ。
- ・GO-TO などの支援策もあり、例年並みに戻ってきている。
- ・GO-TO トラベル開始前は、持ち直した様に見えたが、開始後一旦、予約数の激減。GO-TO トラベルに参加していない当館は、ネット上でスルーされたかと思われ、10月中頃まで予約減少。
- ・県のキャンペーン事業と国の事業を利用しての宿泊客が入った。連休と平日と関係なく入ったが、人数は多く入れなかった。

#### ④第4期（12月～2月）

- ・コロナ禍のためにホテルも休んでいるので、観光客がいないため。
- ・観光客が少ない。
- ・コロナでお客様が来ないため
- ・今までに無いことで、観光客がお出でにならなければ商売になりません。
- ・コロナにより観光客が激減。
- ・観光、物産展が少ない。
- ・12月末日のGO-TO 停止により、観光客の大減少で土産品の売上が大幅に減少。
- ・コロナ禍で観光客の減少、鳴子地区人口の減少、コンビニへの客の流失。
- ・コロナによる来客数の減少が大きな理由。
- ・店への来客数が少ないし、単価も下がってます。例年の大口のお客様（会社関係）がコロナのためか減りました。一方、新規の卸先が増えました。
- ・コロナの影響により、入館者減、竹細工の生産数減のため
- ・まだまだお客様の動きがない。
- ・50日間ほど休業しており、再営業しましたが前年と比べるとやはり売上は伸びませんでした。営業用の材料やその他ほとんどの物が値上がりして利益が減少している。1月・2月は前年より少し減少した程度でした。（テイクアウトが良かったです）
- ・コロナで客の入りが悪い。特に団体の予約がほとんど無い状況である。
- ・GO-TO キャンペーンの停止などコロナの影響による。
- ・コロナ禍による観光業への打撃が大きな原因
- ・12月末から2月初めまでの外出自粛要請の影響があり、来客がストップした。
- ・コロナの影響により観光客が減り、GO-TO キャンペーンも停止していることから。

#### 4. 次期の業況見込み

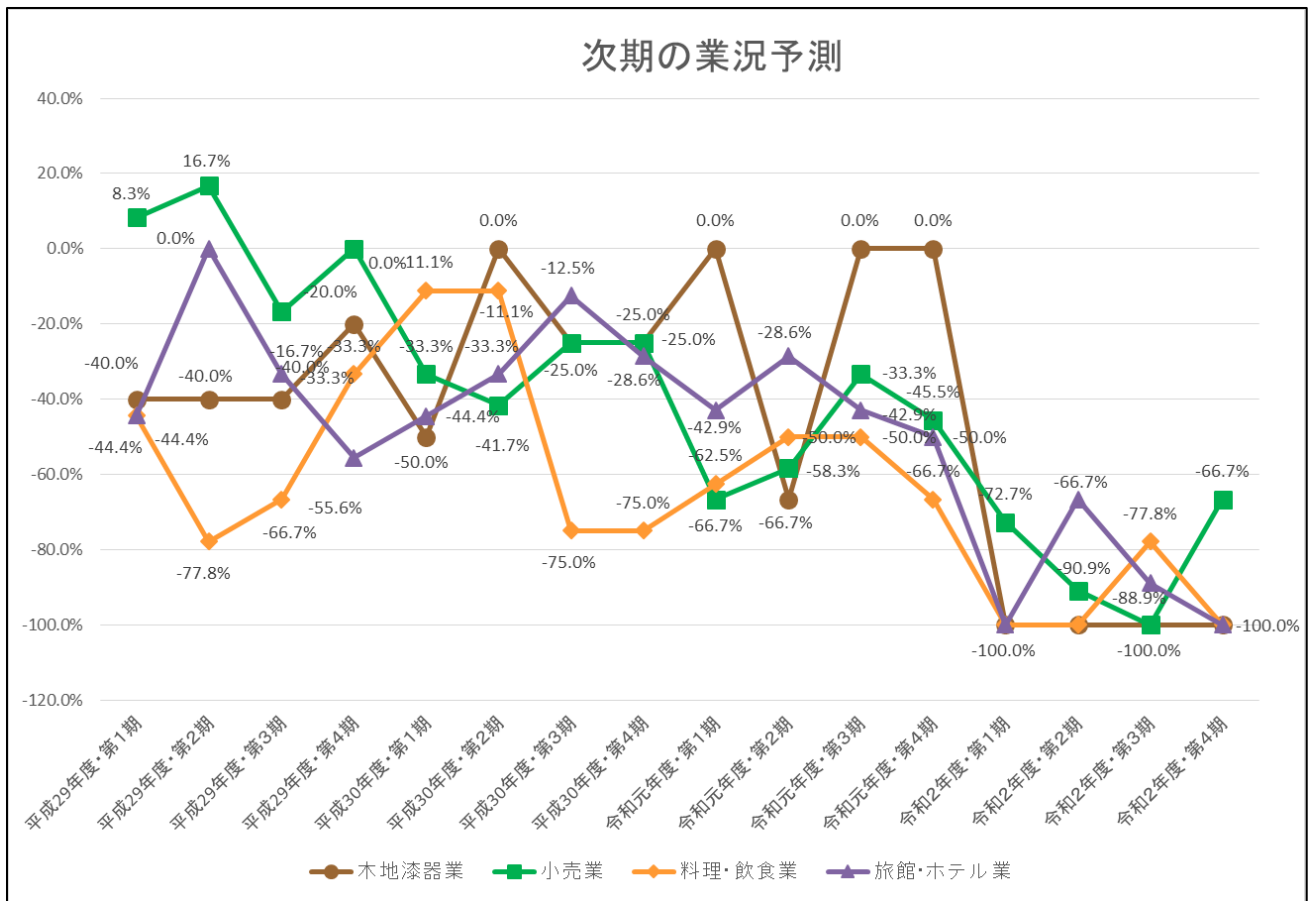
次期の業況見込みとして、全業種、各期において水面下の見込みとなったものの、小売業においては、改善の傾向が見られる。

木地漆器業、料理・飲食業、旅館・ホテル業においては、全回答者が悪化の業況見込みとなっている。

【表4 次期の業況予測】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期→第2期	不調	不調	不調	不調
第2期→第3期	不調	不調	不調	不調
第3期→第4期	不調	不調	不調	不調
第4期→翌1期	不調	不調	不調	不調

【図3 次期の業況予測】



【表5 四半期ごとの業況予測 集計表】

第1四半期	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%
小売業	0.0%	9.1%	9.1%	18.2%	63.6%
料理・飲食業	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
旅館・ホテル業	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%

第2四半期	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%
小売業	0.0%	0.0%	9.1%	27.3%	63.6%
料理・飲食業	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
旅館・ホテル業	0.0%	16.7%	0.0%	33.3%	50.0%

第3四半期	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	60.0%
小売業	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%
料理・飲食業	11.1%	0.0%	0.0%	11.1%	77.8%
旅館・ホテル業	0.0%	0.0%	11.1%	33.3%	55.6%

第4四半期	景気がよい	やや景気がよい	例年と変わらない	やや景気が悪い	景気が悪い
木地漆器業	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	80.0%
小売業	0.0%	16.7%	0.0%	16.7%	66.7%
料理・飲食業	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%
旅館・ホテル業	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	77.8%

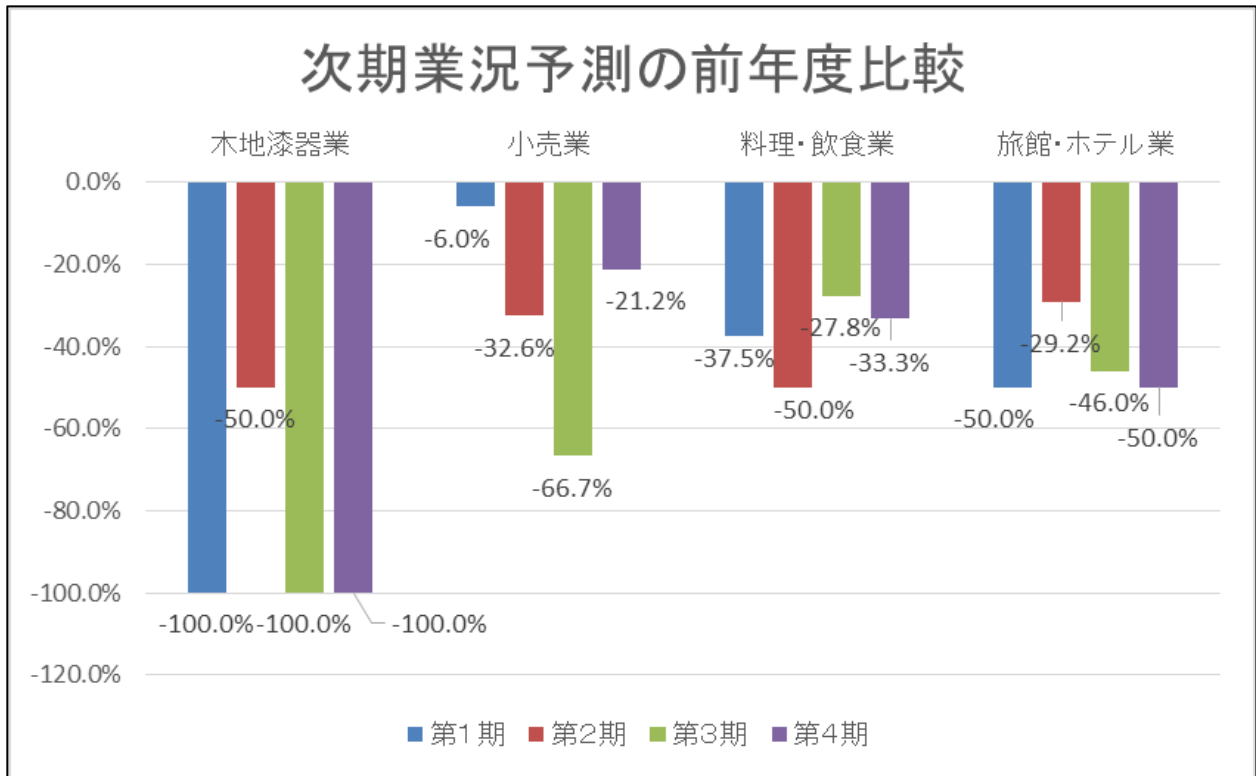
## 5. 次期の業況見込み（前年度比較）

全業種、全期マイナスの次期業況見込みとなっている。特に、木地漆器業においては、第2期における次期の業況予測を除いて、マイナス幅が大きく、悪化傾向が顕著となっている。

【表6 次期業況予測の前年度比較】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期	-100.0%	-6.0%	-37.5%	-50.0%
第2期	-50.0%	-32.6%	-50.0%	-29.2%
第3期	-100.0%	-66.7%	-27.8%	-46.0%
第4期	-100.0%	-21.2%	-33.3%	-50.0%

【図4 次期業況予測の前年度比較】



## 6. 次期の業況見込みの主な理由

### ①第1期（3月～5月）

- ・GO-TO トラベルのクーポン券があるのですが、思うように商売が出来ない状態です。（コロナが怖い気がしています）
- ・コロナの終息が見えない
- ・展示会をする場所から話が無いため、展示会が出来なかった
- ・コロナウイルスが終息しない限り、みやげ店はきびしいです
- ・コロナ禍が続く
- ・コロナの影響が長引くと予想していた

- ・猛暑で甘味が遠のく。
- ・コロナの影響。
- ・コロナウイルス終息の目途が立たないことから、次期景況も悪いと思われる。
- ・今期よりは持ち直すだろうと思うが、昨年と比較した場合は、落ちると思うから。
- ・新型コロナウイルスの影響により、入館者減のため。
- ・コロナのため
- ・まだわからない、見通しが見つからない状況です。
- ・新型コロナウイルスの感染とか、生活環境の変化で、お客様が出歩かないのではないかと懸念している。
- ・新型コロナウイルスの影響で、来客数が減少し、大幅な赤字が見込まれる。
- ・ホテルの宴会客がいないため、夜10時以降のお客さんが来ない。
- ・コロナが終息しない限り、景気上向きは期待できない。
- ・コロナの状況がどうなのかわからないので、良くなるとは思えないが、行政による景気対策もあるようなのでどうなるか？
- ・現状では、好判断の種が無い。
- ・コロナウイルスの影響で、来客が見込めない。

## ②第2期（6月～8月）

- ・コロナが流行している時季に対して、いつもの重要指標に該当するものはないです。
- ・コロナの終息が見えない。
- ・リハビリを兼ねて、お願いされた器を直している。
- ・コロナウイルスの終息を待つのみです。
- ・観光業の稼ぎ時の秋が訪れるが、各種イベント、催事の中止で、集客が望めない。
- ・紅葉シーズンもあり、最低限の売上が確保は出来る。
- ・コロナの影響
- ・コロナウイルスの影響による景気悪化が見込まれる。
- ・コロナの他に、自然災害や健康不安が重なっており、消費が落ちるような気がします。
- ・新型コロナウイルスの影響により入館者数減の為。竹細工の生産数増の見込みが無い為。
- ・コロナの為
- ・女性をターゲットにランチ、カフェ時間での早急な集客を行うために補助事業を活用して、認知度アップ、入りやすい店づくりを行う。
- ・新型コロナウイルス、自粛で、お客様が完全に減っています。よく来ていただいたお客様の来店数も減り、このまま景気が悪くなってゆくと思っています。
- ・来客数が大幅に減少している。
- ・コロナで街全体が低迷している。当店も同様である。

- ・G0-T0 キャンペーンなどの景気対策は、続いているので、ある程度は景気が良い方向に向くのではないだろうか。
- ・好材料が見えない。
- ・来客数が戻らない。

### ③第3期（9月～11月）

- ・見通しが見つからない状態です。
- ・コロナで観光客が少ない
- ・観光客減少
- ・コロナが収まらなければ、これからも景気は上がらないと思う。経済は動いてほしいですが、残念です。
- ・コロナウイルスが収束しない限り人出はないような気がします。
- ・国や県などのコロナ対応にかかっている。
- ・物産展などがないため
- ・毎年、冬期間は閑散期なのだが、今年は寒い時期にコロナウイルスが蔓延しそうで集客が望めない。
- ・G0-T0 トラベルがストップになり、コロナの状況も先も見通せないのでかなり厳しい。
- ・G0-T0 キャンペーンでのお客さんはクーポンの金額のみお買い求めだけで売上は伸びないです。
- ・コロナが収束に向かわない場合、景気回復は期待できないと思われる。
- ・12月は1年の中で最も売上が高い月ですので、昨年と比較した場合、大幅に減少すると覚悟しています。コロナが収束するまでは、景気が良くなることはありえないと思っています。
- ・コロナの影響により、入館者減、竹細工の生産数減のため
- ・コロナの影響が長期化のため、見通しが見つからないです。
- ・コロナの影響と休業期間が長かったので、景気は当店にとっては悪いと思います。
- ・コロナの影響で、団体での飲食がなく、客入りが悪い。
- ・コロナ感染者数が増加してきており、G0-T0 も停止で動きが止まってきており、しばらくは落ち着かず期待はできない。
- ・10月後半独自の企画「Let's GO 湯治」を立ち上げネットで販売開始。そのせいか、11月は通常の状態をキープできたものの、見通しの悪いキャンペーン故、状況に巻き込まれる事なく、独自の立場を貫くつもりです。矛と盾を正当化しているという事に誰も気が付いていないのでしょうか：カスミガセキ。
- ・12月、1月初めは予約客があるが、2月は予約が入らないので不安である。

### ④第4期（12月～2月）

- ・何とんでもコロナが収束しないうちは、お客さんが戻ってこないです。売上は伸びません。

- ・観光客が戻らない。
- ・コロナが収束しないかぎり、希望はもてません。
- ・観光、物産店が少ない。
- ・コロナの収束が見えないし、ワクチン接種も遅れそうで、緊急事態宣言が解除になっても、観光客及び人の往来が望めない。
- ・GO-TO トラベル停止が解除になれば少しは期待を。
- ・コロナ感染者が限りなくゼロにならない内は、回復が見込めない。
- ・まだまだ、あまり期待できないと思ってます。
- ・コロナの影響により、入館者減、竹細工の生産数減のため
- ・コロナ収束が見込めないため。
- ・だんだんと良くなると思っています。コロナワクチン次第と思います。
- ・コロナの影響が続くと思います。人の動行が少ないし、街の中を歩く人もほとんど見掛けません。
- ・今後も同様の状況が続くと思われる。
- ・コロナの先行きが見えない。
- ・ブレーキとアクセル、矛と盾の正当化のように見えた GO-TO キャンペーン。やればやる程、綻びが見えると思えば館は一切、参加無し。独自のプランでどうにか凌いでいる状態。政府の施策が遠く霞んで見える。
- ・コロナ禍の影響がどうなるのか先が見えない。

## 7. 設備投資の動向

各期の設備投資の状況は、表7のとおりとなった。

小売業においては、コロナ対策や消費者行動の変化に対応した設備投資等への積極的な姿勢が見られるものの、木地漆器業、旅館・ホテル業においては消極的となっている。

【表7 各期の設備投資の状況】

区分	木地漆器業	小売業	料理・飲食業	旅館・ホテル業
第1期	0/5件 (0.0%)	5/12件 (41.6%)	2/9件 (22.2%)	0/9件 (0.0%)
第2期	0/5件 (0.0%)	3/12件 (25.0%)	3/9件 (33.3%)	0/9件 (0.0%)
第3期	0/5件 (0.0%)	4/12件 (33.3%)	0/9件 (0.0%)	1/9件 (11.1%)
第4期	0/5件 (0.0%)	3/12件 (25.0%)	1/9件 (11.1%)	0/9件 (0.0%)
年平均割合	0.0%	31.3%	22.2%	11.1%

※年平均割合＝設備投資を行った事業者数の期ごとの割合の平均値

なお、設備投資が無かった期は含めない



## 8. 設備投資の主な内容

### ①第1期（3月～5月）

- ・コロナ対策をしながら。
- ・機器の点検または古くなりつつある設備がある
- ・カロリー表示のプリンター（9月予定）
- ・新しい運営方式を取り入れるため、設備改修工事を見込んでいる。
- ・老朽化、省力化。
- ・コロナ対策で、店内の環境、衛生に何か設備したい。

### ②第2期（6月～8月）

- ・新商品または新パーラーにともなう機材等の設備
- ・現況の景気悪化を改善するために、設備投資を行って、新しい業務対応を行うため。
- ・老朽化、省力化。
- ・オープンカフェを当店敷地内に設置することで、散策している方を誘導する。三密対策になり、お客様に安心して飲食していただくことができる。メニューや価格を明示する掲示板を設置する。
- ・コロナ対策で、何か・・・と思う。

### ③第3期（9月～11月）

- ・設備の一部が古くなってきている。
- ・コロナ禍における生活様式の変化に対応した施設に改修するため
- ・今期手がけた計画の継続で、商品パッケージのリニューアル統一化をし、地元や他県の人にもアピールし、認知してもらい、名物として販路拡大したいです。
- ・営業方法の変更（テレワーク等）

### ④第4期（12月～2月）

- ・ボイラー交換
- ・コロナ後には、従前の生活様式ではなく大きく変わることが予想される。それに対処するための設備投資を今から行う。
- ・旧店舗を解体して、駐車場にする予定であるが、時期が決まっていません。
- ・老朽化のため